

2024 (令和6) 年10月



ことば

名張市立桔梗が丘南小学校



「ことば」の教室だより

10月に入り、長かった残暑もようやく落ち着き、暑すぎず、寒すぎず、落ち着いて学習ができる季節になってきました。学校では、スポーツ、芸術、読書、文化の秋ということで、いろいろな取組がなされていることと思います。子どもたちの話の中にも、工作をしたことや体育で取り組んでいること、また、社会見学にでかけて学んだこと、野外活動でのこと、音楽会に向けて歌の練習をしていること、秋の運動会に向けて練習していることなどの話がでできます。一つひとつの体験、活動、学習が子どもたちの自信につながってくれることを願っています。

また、地域のまつりに参加したり、季節を感じるようなお出かけをしたりしたことも話にでできます。「ことばの教室」でも、古今東西ゲームや黒ひげ危機一髪ゲーム、ひらがな入れ替えクイズなどをしながら、秋にまつわる言葉に触れるようにしています。



「たんぼに赤い花が咲いてるなあ。」
「きれいよね。『彼岸花』っていうねんよ。
真っ赤できれいよね。今年は、暑かったから咲くのが遅くなっているんやなあ。」
「神社で、ししまいを見たよ。」「秋祭りやねえ。子どもたちがはっぴ着てるね。こどもみこしを担いでるわ。」

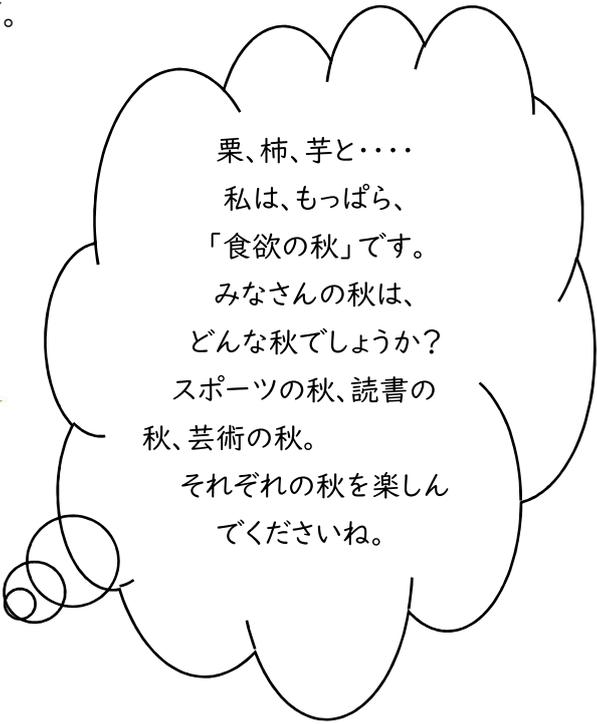


こういった何気ない会話が、見える景色や実生活、実体験と結びついて、よりイメージしやすく、「ことば」が豊かになっていくと思います。

ひらがな☆入れかえ クイズ! (9月・10月編)

名前()

- ① まんさ ○○○
- ② きおつみ ○○○○
- ③ いうたふ ○○○○ 
- ④ ねいかり ○○○○
- ⑤ ひんがなぼ ○○○○○ 
- ⑥ もくきんせい ○○○○○○ 
- ⑦ しゅのうぶんひ ○○○○○○
- ⑧ ろういはん ○○○○○
- ⑨ くしょくよ ○○○○○ あきの秋
- ⑩ ひくいろい ○○○○○
-  ⑪ ぽーすつのひ 
○○○○○○



栗、柿、芋と……
私は、もっぱら、
「食欲の秋」です。
みなさんの秋は、
どんな秋でしょうか?
スポーツの秋、読書の
秋、芸術の秋。
それぞれの秋を楽しん
でくださいね。

10月22日は、国際吃音啓発日

~Internationala Stuttering Awareness Day~

この日は、1998年に国際吃音者連盟（ISA）・国際流暢性学会（IFA）などによって定められた、世界に数百万人いるとされる吃音（きつおん）や言語障がいを持った人に対する理解啓発を目的として定められました。吃音は、話し言葉が滑らかにでない発話障がいのひとつです。発話の滑らかさやリズムカルな流れが乱れる話し方が吃音と定義されています。日本全国でおよそ100人に1人、およそ120万人が吃音をもっています。吃音の出方は、連発、伸発、難発など、人それぞれですし、また、考え方も人それぞれです。

「ことばの教室」では、①吃音について学ぶこと②それぞれの考え方に寄り添い、気持ちの整理を手伝うこと③担任の先生へサポートのお願いをすることに努めています。

吃音を知る絵本

~秋の読書の一冊にいかが~



「うまくしゃべれない ぼくは、へん？」

北海道吃音・失語症ネットワーク

「小学生のうちから吃音を知る機会をつくる」目的で作られた絵本です。YouTubeで検索すると、読み聞かせを視聴できます。「きっとどもっちゃうけど、それでもいいや。ぼくは、ぼく。きっとだいじょうぶ。」そう言えるようになるまでに必要なことは、周囲の理解と応援です。吃音について正しく知り、「ひとりじゃないよ。」と味方になってくれる友だちや「相談していいんだよ。」と伝えられる大人たちが増えるようにしていきたいです。



「ぼくは川のように話す」

ジョーダン・スコット(文) シドニー・スミス(絵) 原田 勝(訳)

自らも吃音をもつカナダの詩人ジョーダン・スコットさんが自身の幼いころの体験をもとに書いた初の絵本です。障害をもつ体験を芸術的な表現としてあらわした児童書に与えられる「シュナイダー・ファミリーブック賞」を受賞しています。バイデン米大統領も悩んだ吃音症。そのことが原因でからかいの対象となったり、コミュニケーションに不安を感じたりと多くの子ども達や大人が苦しんでいます。そんな「吃音」だけでなく、人と同じように物事が「なめらかに」できないことに悩む子どもたちを「言葉と絵のイメージ」で救ってくれる絵本です。

「吃音は、なおさなければならぬ困った症状ではなくて、これがぼくの話し方であり、個性なのだ。このしゃべり方がなくなってしまうたら、それは、もう僕は僕といえないのだ。」(作者)